



公益社団法人日本環境教育フォーラム

清里ミーティング2023

(通算37回目)

「これからの日本型環境教育の提案～2030ネイチャーポジティブ～」

報告書

日 時：2023年12月1日（金）～3日（日）＜2泊3日＞

会 場：公益財団法人キーブ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

後 援：環境省、2030生物多様性枠組実現日本会議、文部科学省、林野庁、山梨県、
独立行政法人国立青少年教育振興機構、ESD活動支援センター、
関東地方ESD活動支援センター、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会

協 賛：株式会社サンエー印刷

公益財団法人SOMPO環境財団

SOMPOホールディングス株式会社

瀧本株式会社

電源開発株式会社

日能研

参加者数：96名

目次

開催趣意	1
スケジュール	2
開会式	5
全体会	6
1日目 全体会1：人々が生き、自然を守る「ネイチャーポジティブ」を目指す世界.....	6
2日目 全体会2：連携が生むシナジー 自然資本を活用する	11
ポスターセッション	17
ワークショップ	19
閉会	24
その他の企画	25
清里ミーティングこれまでの実績	21

開催趣意

清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートした。毎年、自然学校等の環境団体、企業、行政、教育機関等から約200名の関係者が参加し、環境教育に関心のある人たちの交流の場として30年以上続いてきた。

環境分野以外の多様なステークホルダーとの協働も目指し、広く「持続可能な社会に貢献するひとづくりに携わる人たちの学び合いの場」として、多様性とパートナーシップによって環境問題・社会課題解決のヒントを探る。2018年には、「平成30年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構）にて環境大臣賞を受賞した。

2020年以降は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、オンライン形式で開催。各種制限が緩和されたことに伴い、37回目を迎える2023年は清里ミーティングの原点である清泉寮において対面形式で開催した。

■ 清里ミーティングの目的

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワメントする。
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する。
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向け、環境教育だけではなく、他分野とのパートナーシップがより重要となっている。清里ミーティングも環境教育以外のより広い分野からの参加者を募り、新しいコラボレーションが生まれることをねらっている。お互いの活動を理解し、認め合い、共に考え、力を合わせていける場の基盤づくりを目的としている。

■ 今年の特徴

清里ミーティングで「日本型環境教育」が最初に提案されてから30年以上、私たちは生物多様性や自然環境の保全活動等に取り組んできた。しかし生物多様性が前例のない早さで減少する状況は、むしろ加速しつつある。一方で、2022年に生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択されたことを受けて、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる新たな世界目標「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を達成するために、多様なセクターがそれに向けて動き出している。それぞれが取り組むことはもちろん、行政、企業、NPO/NGO、教育・研究機関等のパートナーシップによって、より大きな変革が期待される。

今回の清里ミーティングでは、ネイチャーポジティブの考え方を知るとともに、多様なセクターとのシナジーによってより大きな展開を起こすヒントをともに探った。

スケジュール

日 程：2023年12月1日（金）～3日（日）＜2泊3日＞

会 場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

参加費：（2泊3日）JEEF会員40,000円、一般45,000円、学生35,000円

主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム（Japan Environmental Education Forum：以下、JEEF）

■ タイムスケジュール

清里ミーティング2023タイムテーブル

	時間	プログラム	会場
12月1日 (金)	12:00	受付開始	八ヶ岳自然ふれあい センターホール
	13:00	開会挨拶	
	13:05	オリエンテーション(スケジュール説明、注意事項、スタッフ紹介)	
	13:20	全体会1:人々が生き、自然を守る「ネイチャーポジティブ」が目指す世界 <ゲスト> 渡辺綱男さん(一般財団法人自然環境研究センター上級研究員) 松尾章史さん(NPO法人ホールアース自然学校) <ファンリレーター> 加藤超大(JEEF)	
	15:20	チェックイン ※本部が「本館ホール前」に移動しますので、ご注意ください。 八ヶ岳自然ふれあいセンターは16:00で閉館となります。 ※ポスターセッション発表者は準備をお願いします。 ※WS実施者は担当スタッフとの顔合わせ&会場確認があります。	
	16:45	ポスターセッション(60分) ※受付でお配りしたファイルにフィードバックシートが入っています。 発表者へのフィードバックをお書きください。 5枚フィードバックを書いた方は事務局まで。プレゼントと交換します！	本館ホール
	17:45	交流の時間(自由参加) ※自由参加です。 ※全体会のこと、環境教育のこと、テーマごとにおしゃべりしましょう♪	
	18:15	移動	
	18:30	夕食	新館ホール
	19:30	情報交換会 ・コンシェルジュデスク&リクルートコーナー ・バー開店♪ ・ショップ「ちえの木の実」 ・ワークショップの参加エントリー最終締切(本部) ・20:30安西理事による星空観察会！ ・本部は21:00でCLOSEします。	本館ホール
22:00	1日目終了 ※まだ喋りたい！そんな方は二次会@ハンターホールへ。		

12月2日 (土)	7:00	早朝ワークショップ	(参照) ワークショップ会場一覧
	8:00	朝食	新館ホール
	9:30	ワークショップ ・WS1:「生物多様性×自然学校」を考える ・WS2: 第一回おうち自然学校全国フォーラム! ・WS3: 竹を使って手作りまきすを作ろう♪	(参照) ワークショップ会場一覧
	11:30	片付け、ランチタイム	
	12:10	<オプション企画> 清里満喫ショートトリップ! ①牧場見学コース 12:10本館ロータリー集合 ②ヤマネミュージアム見学コース 12:35ふれセン前集合 ※入館料が別途かかります。 ③のんびり雑談会 本館ホール暖炉前でまったり。お好きなタイミングでどうぞ。	
	13:30	ワークショップ ・WS4: 知っておきたい生物多様性の基礎、基本 ・WS5: 学校教育+社会教育=持続可能な社会の創り手となる時間! ・WS6: 隠れて見えないインパクト 気候変動をとめるキーワードを暮らしから探そう ・WS7: ~インタープリタースガイドブック出版記念~「インタープリテーション」が広げ可能性	(参照) ワークショップ会場一覧
	15:30	休憩・移動	
	16:15	全体会2: 連携が生むシナジー 自然資本を活用する <ゲスト> 藤田香さん(東北大学教授、日経ESGシニアエディター) 奇二正彦さん(立教大学准教授) <ファシリテーター> 高野孝子(NPO法人エコプラス/JEEF理事)	本館ホール
	18:15	移動	
	18:30	夕食	新館ホール
	19:30	情報交換会	本館ホール
22:00	2日目終了 ※まだ喋りたい! そんな方は二次会@ハンターホールへ。		

12月3日 (日)	8:00	朝食	新館ホール
	9:00	チェックアウト ※大きな荷物は本館ホールでお預かりします。 ※鍵は開けたままご退出ください。鍵は本部または新館フロントで回収します。	本部/新館フロント
	9:30	ワークショップ ・WS8: 体験から始めるネイチャーポジティブ～子どもたちが概念を掴みやすくなる工夫～ ・WS9: ウェルビーイングとSDGs 二つ並べて考えてみよう ・WS10: 見て・描いて・楽しむネイチャージャーナリング ・WS11: ネイチャーポジティブ×システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の適用可能性について	(参照) ワークショップ会場一覧
	11:00	片付け・移動	
	11:30	閉会挨拶	新館ホール
	12:00	さよならパーティー	新館レストラン
	13:00	終了	

開会式

司 会 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 垂水恵美子
主催者挨拶 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 理事長 阿部 治

JEEF 理事長・阿部治より主催者挨拶を行った。「日本型環境教育」という言葉が生まれた 1987 年の清里ミーティングから今に至り、コロナ禍を経て 4 年ぶりの清泉寮開催であること、参加者の皆さんとともに充実した 3 日間を送ることを望むことが伝えられた。



司会より JEEF 理事・監事、スタッフ (JEEF、キープ協会、学生ボランティア)、3 日間のスケジュールを紹介。配布資料や注意事項などを説明した。

全体会

1日目と2日目に2回ある「全体会」では、ネイチャーポジティブの概要と、自然学校や環境教育が担える役割、他業種の連携による広がりや4名のゲストと参加者が一緒に考える時間となった。

1日目 全体会 1:人々が生き、自然を守る「ネイチャーポジティブ」が目指す世界

登壇者：

渡辺綱男さん（一般財団法人自然環境研究センター上級研究員）

松尾章史さん（NPO 法人ホールアース自然学校自然共生室室長）

ファシリテーター：

加藤超大（JEEF 事務局長）

全体会 1は、清里ミーティングのスタートとなるプログラム。本題に入る前に、ファシリテーター主導で近くの席の参加者同士が自己紹介し合い、緊張をほぐすところから始まった。



全体会 1は2名のゲストに登壇いただき、今回のテーマでもある「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の概要や国際目標に至る経緯、生物多様性にまつわる世界や日本の動きなどについて解説するとともに、その中で環境教育に携わる私たちにできることを考える時間となった。

1 人目の話題提供は渡辺綱男さん。参加者がネイチャーポジティブを理解し、意見交換するための土台づくりとして、生物多様性やネイチャーポジティブの概要を解説いただいた。渡辺さんは環境省自然環境局長・生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）準備事務局長・国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）会長などを務め、生物多様性の保全に関する取り組みを全国に広げることに貢献した人物であり、当時の経験や経緯、世界と日本の動きも交えて紹介された。



(渡辺さん講演概要)

環境省時代、知床、長良川など様々な地の国立公園に赴任し、その地域の魅力や課題と向き合ってきた。1992年、生物多様性条約が国連で採択されたことから国際的取組を柱に日本でも環境基本計画や構想、法律等がつけられた。以降、藤前干潟のラムサール条約登録、2002年の生物多様性国家戦略の策定、2005年自然の叡智をテーマに愛知万博開催など、身近な自然や里山環境等を守り、自然と人がバランスよく暮らしていける社会をつくる方針が時間をかけて作られていった。2010年に名古屋で開催された第10回生物多様性締約国会議（COP10）では議長国として二次的自然環境における自然資源の持続可能な利用・管理を推進すること（SATOYAMA イニシアティブ）を提唱。日本から提案した「人と自然の共生」が長期目標として合意され、2020年までの新しい世界目標（愛知目標）が定められた。2011年に発生した東日本大震災や、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえながら、守るべき自然とは何か議論し、次々と起こる社会課題に向けて対策が講じられてきた。

そして愛知目標の最終年である2020年、「20の目標それぞれに大きな進捗はあったが、完全に達成できた目標はひとつもなかった」という評価結果の中で、「これまで通りではない連携で取り組めばこれ以上の悪化を止め、回復に転じさせることができるのではないか」、「第一次産業・工業・都市計画・気候変動・健康等の取り組みの中に生物多様性を取り込むことで、生物多様性の状況を今よりよくすることができるのではないか」と強調された。コロナ禍を経て2021年から2030年を「国連生態系回復の10年」と定めることが合意され、それを受

けて 2022 年に開催された国連生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）では、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」の国際目標が合意された。「人と自然の共生」の大切さが世界に浸透し、今回の長期目標にも示されたのは日本として嬉しいこと。2030 年に向けて生態系の悪化を止めるのではなく、反転させて回復にもっていくこと、これが今回のテーマである「ネイチャーポジティブ」の考え方だ。それを実現するために採択された 23 のターゲットのひとつが「30by30（サーティーバイサーティー）」である。保護地域を 30%拡大すると絶滅リスクが 3 割減少するという研究結果に基づいて、陸域、陸水域、沿岸及び海洋（保護区と OECMs）の 30%以上を保全することを目標としている。保護地域の内外問わず民間の取り組みによって保全が図られている区域を「自然共生サイト」に認定し、保護区以外の地域で、生物多様性が保全される地域を OECMs : Other Effective area-based Conservation Measures として登録、ここを積極的に設けていく。

これらの国際的取組を受けて 2023 年 3 月、約 10 年ぶりに環境省が新しい生物多様性国家戦略を策定。2030 年にネイチャーポジティブの実現、2050 年に自然共生社会の実現に向けて 5 つの基本戦略が定められた。自然と人のつながり（ランドスケープアプローチ）、気候変動や防災・健康・教育・地域づくり等と生物多様性が連携することで大きな力となること、COP15 で何度も強調された社会全体の協働、これらがネイチャーポジティブの実現に向けて重要なポイントとなる。

2025 年に予定されている大阪・関西万博では、大阪湾の埋立てが予定され、市民団体と自治体の協議が始まった。万博を契機に数少ない水鳥の飛来地をいかに最善の形で確保できるか、いかに大阪湾とその周辺の自然のつながり、生態系のネットワークを回復につなげられるか、それがテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の万博になるのではと思っているし、ひとりでも関心を持つ人が増えることで一歩でも前進するのではと期待を込めて、本日ここで紹介した。

自然をより良い状態に回復させることができた時、自然だけでなく地域の人たちの暮らしや営みが今よりも輝きを増す、そんな将来を目指したい。全国それぞれの地域で、生物多様性の取り組みを進めてほしい。

.....

渡辺さんの講演後、個人でふりかえりの時間をとり、キーワードを書き出した。

2 人目の話題提供は松尾章史さん。人がきちんと手を加えることで生物の多様性を守る取組を富士山麓で行い、小さなトライ&エラーを繰り返しながら小さな自然再生の事例を増やし、得られたノウハウを社会に還元する実践を進めている。渡辺さんの講演を踏まえて、いち早く事業にネイチャーポジティブを取り入れた自然学校として、ホールアース自然学校の事例を紹介いただいた。



(松尾さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ホールアース自然学校は富士山麓を拠点として「自然との共生」と「家畜動物とのふれあい」をテーマに始まり、①社会教育、②地域、③つなぎ役（異分野との掛け算）をキーワードに活動している。「ただのいきもの好き」だった私は好奇心にかられて生き物の記録を続けていたが、GIS（デジタル情報として生物情報をマップに落とす手法）や、GIS情報の社会的位置付けが外部から助言があったことをきっかけに、渡辺さんの話にあったOECM候補地の抽出や利活用の可能性が生まれた。ここで「自然学校ならではの役割とは何か」を攻めの姿勢で考えた。生まれた仮説が、「生物多様性の保全を伴走支援する中間支援的な動きに応用できるのでは」ということ。証明するためにさまざまなステークホルダーを訪問し、今では仕事のパートナーになっている。今回は行政と地域保全団体との取り組みを2つ例に紹介する。

「30by30」の目標では保護地域30%を目指す。ホールアースのある富士宮市で収集したGISの生物情報によると、富士宮市は陸域のみの保護地域+OECMで「30by70」を達成していることが分かった。このデータをビジュアル化したものが、価値を示す上で非常に効果的だった。富士宮市と部署横断的な勉強会を開催し、生物多様性地域戦略策定の契機となった。縦割りがちな行政でホールアースがハブ（中間支援者）となって分野横断的に取り組み、地域の皆さんを含めて血の通った地域戦略が組み立てられると期待している。2つ目の事例は地域保全団体との取り組み。次世代不足や専門的知見不足等の課題がある希少種保全の活動をする団体に、人の交差点をつくるのが得意な自然学校が入り、信頼できる若い方々や専門的な研究所の先生とお繋ぎして、今は垣根を越えて希少植物を守る枠組みをワイワイ楽しく進めている。

自然学校は、もちろん環境教育が一丁目一番地であることに変わりないが、それ以外にもできることはたくさんあると実感した。まず、1つ目の可能性は生物多様性に特有の「地域性」。自然学校は日本各地を毛細血管のように精通している団体が多く、特定の地域に精通した「ローカル・シンクタンク」の機能を持っている。2つ目

の可能性は多様なステークホルダーとの触媒。自然学校は環境教育分野で長らくやってきた積み重ねによって、社会関係資本を丁寧に育てている。3つ目の可能性は明日の全体会2でお話しされる「自然資本」に対する「付加価値」を与えていけること。たとえば企業が区画Aの地域を「自然共生サイト」へ登録したとする。生物多様性の価値は無条件に認められるが、インセンティブは不十分。そこに自然学校の役割がある。たとえば竹林整備や森林整備、食、ジビエ・鳥獣害、マインドフルネスなど、自然学校の強みと生物多様性の恵みのプログラム化によって自然共生サイトに付加価値をつけられる。おそらく企業はこれからもOECDの登録を目指して動くと思うが、そこに付加価値をつけることで、自然共生サイトの価値や生物多様性保全が飛躍的に進んでいくのではと考えている。

ホールアースがここに至った経緯をふりかえって、あると良い機会が2つある。1つは「壁打ち」の機会。外部から問いをもらおうと答えを考えたり、トライ&エラーしてみたり、自分たちの価値を確認できた。もう1つは「他言語」と交わる機会。自然学校だけではなく金融、行政、企業などたくさんの他分野の言語と交わることで、共通点や違いを見分け、補完し合える点や合意できる点を探すことが出来る。自然学校は、「地域」における自然「共生」社会を目指す上で、欠かせない役割を担うことができると思っている。地域性は自然学校が持っている唯一無二の価値であり、まさに多様性。保全にはキープレイヤーがそれぞれの価値を発揮することが大事であり、自然学校にとっては今までやってきた活動を転換しただけ。きっと皆さんも棚卸することによって新しく生物多様性、ネイチャーポジティブに掛け算できることがたくさんあるはず。ホールアースはほんの2年程度、仮説のまま走って、まだまだたくさんの可能性があると思っている。ここから3日間皆さんと話をすることで、もっと新しい可能性や別の役割を探していけると期待している。

.....

2日目 全体会2：連携が生むシナジー 自然資本を活用する

登壇者：

藤田香さん（東北大学教授、日経 ESG シニアエディター）

奇二正彦さん（立教大学准教授）

ファシリテーター：

高野孝子さん（JEEF 理事/NPO 法人エコプラス代表理事）

始まりに環境省環境教育推進室の東岡室長にご挨拶を頂き、環境教育等促進法の改定に伴い新しい方針が示されること、それに対するパブリックコメントを今後募集する予定であることが紹介された。



全体会2は、全体会1で話された「ネイチャーポジティブを要素に、自然学校が地域のハブの役割を担うこと」を受けて、全体会2では企業と自然学校等の連携について語られた。

話題提供1人目は藤田香さん。長年、生物多様性や自然資本、地方創生などをテーマに日経 ESG で編集者として活動し、現在は同誌のシニアエディターと東北大学教授を務める。生物多様性の世界潮流や企業の取組について、事例を中心に情報提供をいただいた。



(藤田さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2022年の昆明・モンテリオール生物多様性枠組は、企業にとっても重要な決議になった。世界の企業は ESG= Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス=企業統治)を進めることが求められる。これまでも取り組む企業はあったが、企業の情報開示をもとに金融機関が判断し、投融資するようになったことが大きな変化。これによってはじめてネイチャーポジティブは単なる社会貢献ではなくなった。ただ、一方的な情報開示の内容だけではグリーンウォッシュ(実態が伴っていない環境活動)や活動が本当に自然に配慮しているかが判断できないため、情報開示を標準化する仕組みができた、これが TNFD で今回の大きな動き。

「自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)」の情報開示は自然関連の統括担当者の設置や取締役会での議論に関する「ガバナンス」、自社バリューチェーンが自然へ与えるリスクとその対策に関する「戦略」、自社の事業が自然に対して与える影響・リスクの監視手順に関する「リスクとインパクトの管理」、自然に関する各種の「指標と目標」と4つの柱を主軸に開示することが要請された。

実際に自社のサプライチェーン全体をチェックするツールを活用して調査を行い、事業のリスクを管理している企業もある。また、既存の里山保全活動をブラッシュアップし、OECM 登録を目指す企業は多く、全体会1で話のあった「自然共生サイト」に120件以上が認定されている。そのフィールドを活用してキャンプや登山、環境教育、レクリエーションの場とする企業もあれば、農地を登録し、必要以上に下草を刈らない等、生物多様性の保全に努めつつ、市民団体のボランティアや研究者と長期間でのモニタリング調査を行う企業もある。10社以上の企業が入る工業団地が認定されているケースもある。企業と漁業者や市民団体が協働で藻場を増やし、海の森によってCO2吸収(ブルーカーボン)を増やし、ブルークレジット認証を取得し、自然共生サイトに認定されている例もある。さらに、「生物多様性の情報の【見える化】」を行う事例がある。モニタリング調査等で得られた生物多様性の増減の情報を科学的に定量化・見える化することは、そうした見える化技術を提供する企業に

とってネイチャーポジティブの機会の創出になる。たとえば ICT の活用によって、スマート農業、スマート漁業、原材料のトレーサビリティ等に見える化が可能になり、そうした業種のネイチャーポジティブに貢献できる。養殖業では餌による汚染が海洋に与える影響を数値化するなどが可能になる。また、「TNFD 情報開示」は 23 年 9 月に枠組みができたばかりだが、TNFD レポートの試作がされている。

指標や目標を示すには科学者の知見も必要となり、より多様なステークホルダーが関わる必要が出てくる。ただし情報開示ができるのはごく一部の上場企業で、トップランナー的な大企業も全社員の理解までは至らず、一部の社員が情報開示のために動いているのが現状。経営者、調達担当者もネイチャーポジティブをよく理解していないケースがある。評価する金融機関も自然に関する専門知識が十分ではない。さらに地域の中小企業や商店といった地域を形成する組織がネイチャーポジティブの重要性や機会の創出を理解することが大事だが、そこにはまだ浸透していない。

そういった人達に「ネイチャーポジティブの考え方とは何か」を教え、専門家等と繋ぎ、何がネイチャーポジティブなのか学び合う場が必要だ。企業・NPO・行政など、多様なステークホルダーが集まるこの清里ミーティングがその場の一つなのだと思う。

私が重要だと考えているのは、「流域」や「地域」で議論すること。一つの地域に関わる企業は多くあり、その事業内容は様々で、一つの指標を目標とするのは難しい。企業、学校、行政、市民団体が、自分たちの地域にとってのネイチャーポジティブが何かをみんなで議論し、目標を立て、企業もそこに情報を開示する。「自然を知る人材の育成」「科学的な目標設定と対話」「ストーリー（ビジョン）を作るための対話」、ここに清里ミーティングに参加されている皆さんのスキルが役立つと考えている。

最後にみなかみ町、三菱地所、日本自然保護協会（NACS・J）の 3 者連携協定を紹介したい。企業がお金を出し、NACS・J が目標設定やモニタリング手法を提供。不動産開発が自然に与える影響や評価手法を開発し、今後の不動産開発に活かそうとしている。こういった地域での取組が重要になってくる。



(奇二さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

自然学校がネイチャーポジティブに貢献するために何が必要か。全体会1の言葉に実践を加えて「ローカル・Do・タンク」と考えている。「土地の価値」を掘り起こす能力と「環境教育」のスキルを用いて、ネイチャーポジティブに貢献したい様々な企業等とのマッチングができる可能性がある。地形、地質、水の流れ、気象条件などの地学的環境に適応した多様な生物学的環境と、人間によって造られた道路などの無機物も含めた人文的環境が相互に影響し合い、ダイナミックに変化し続ける環境の中に「土地の価値」があると考えている。一方、「環境教育」は、調査と調査報告書を基本とし、我々の得意分野であるインタープリテーションだけでなく、保全計画を立てて実践すべき。新学習指導要領における環境教育の項目には「保全」が明記されているので、活動に含めることで、学校とのコラボレーションも期待できる。近年では企業社員の環境意識もだいぶ高まっているが、ビジネスの中心にネイチャーポジティブが据えられているわけではない。しかし現状の自社資本をうまく活用し、ブレイクスルーしたい企業はある。

私たちが常に心掛けているのは、必ず調査をしてから提案すること。たとえば日本最大級のマンションに緑地を作る計画では、調査によって周辺に昆虫や鳥などの生き物も多く生息していることがわかり、コミュニティ形成や生物多様性のための植栽計画を提案したが、入居者に対する配慮もあり、呼びたい生き物は限定的にせざるを得なかった。その後年4回、近隣にある自然豊かで大きな都市公園と、山梨県などの保全活動のフィールドで入居者向けの自然観察会を行い、住民にも理解や愛着を促した。こうしたマンションがたとえば都会に10個増えれば、エコロジカルネットワークの構築が可能となる。このように、手法を提案し、自社で実施できる形態を目指し、生物多様性を豊かにしていくお手伝いをしている。当時のクライアントからは、「今までのディベロッパーは、マンション建築後の主な業務はクレーム対応だったが、このような取り組みによって今後ポジティブな価値提供が可能となり、それがマンションの購入者にとっても資産価値になり、企業にとってもブランディングに

繋がる可能性がある」と前向きな意見を聞くことができた。

また、栃木県那須の森の中にある牧場で行ったスタッフ向けの自然観察会では、30分程度生物多様性に関する講義をした後、AIで生き物の名前が調べられるアプリ（Biome や iNaturalist）を使った調査を行った。森のどこにどんな生き物が生息しているかなどの情報がアプリ上に蓄積され、専属のスタッフが情報の取りまとめを行い、保全の企画提案が作れた。私や専門家だけではなく、一般のスタッフと一緒にすることが重要になる。さらに、観光客も作業に参加すると「ネイチャーポジティブポイント」が付与されて、ポイントが貯まるとお菓子と交換できるなどの提案も行っている。何度も足を運んでもらうことで、単なる観光客からファンになってもらえると嬉しい。

続いてCarl Zeiss社（ZEISS）が行うSTEM教育の取り組み。三重県いなべ市、デンマークのアウトドアブランド「ノルディスク」とコラボしてつくったかっこいいキャンプ場では、川の水生昆虫調査にZEISSの顕微鏡が入ることで、臨場感のもと取り組むことができた。また水質の評価には、ネットに掲載されている環境省の「簡易水生生物評価シート」を使用。土壌でも青木淳一「やさしい土壌動物のしらべかた」の検索シートを使えば同様の仕組みで行うことができる。このような機能拡張により、感動が倍化、顕微鏡の効果を実感する良い機会となった。

また、企業トップの意識が高いと一気に話が進む。高層マンションに隣接したこども園の事例。江東区には小さなビオトープが点在しており、ここを管理するNPO法人に周辺を調査した上で植栽設計を提案したところ、賛同してくれた。絶滅危惧種も含めた地域生在来種の種を採取し、こども園の園庭に播くと、その地域の在来の野草だけで一面緑になった。子どもたちが遊ぶのであつという間にはげてしまったが、それで十分。その場所をハブに保護者や保育士と、この地域で活動を行う団体が交流する機会を築けることが我々にとっては大事だった。

このように「土地の価値」を掘り起こし、インタープリテーションから保全まで落とし込んだ環境教育にすることが重要であると思う。各自然学校は、そこまでの流れを足元のフィールドで長期的に行うことで、ESD様々なビジネスチャンスになりうると考えている。

.....

ネイチャーポジティブを全体で進めていくためには、他業種の連携による広がりが重要。全体会2では企業・行政・NPO/NGO・学生などがそれぞれ混じったグループとなり、ゲストの話の踏まえて、自身の立場で何ができるか、どんな協力関係が築けるかディスカッションした。

時間の都合で1回のディスカッションとなったが、参加者からは「もっと掘り下げて話したかった」と感想もあり、盛り上がった時間であったことが伝わった。



ポスターセッション

ポスターセッションは参加者が自身の活動報告、提案、事例紹介等を行う場として設定している。3枚の板状ダンボール(さんかくん)で三角柱を作り、その側面にそれぞれ発表者がポスター等を貼り、時間内で発表する。発表後、使用した「さんかくん」は1枚ずつ外し、会期中は廊下に貼り出しを行った。

清里ミーティング2023 ポスターセッション発表者一覧

No.	名前 (敬称略)	社名・団体名	タイトル
1	小池 潔	特定非営利活動法人 ジェーン・グドール インスティテュート ジャパン	国連平和大使 ジェーン・グドール博士の提唱する自発的環境保護活動 推進プログラム、ルーツ&シューズの紹介
2	林 浩二	千葉県立中央博物館	博物館法の改正と、国際博物館会議(ICOM)規約における博物館の定 義の改定
3	鳥屋尾 健	(公財)キープ協会 環境教育事業部	森林ESDの可能性～小金井市の実践を通して～
4	谷口 哲郎	NPO法人つがる野自然学校	白神へのおさそい(つがる野自然学校の活動紹介)
5	多比良 重誠	電源開発株式会社	「エコ×エネ体験プロジェクト」～ひととエネルギーと環境を“つなぐ”体 験型プロジェクト
6	笹川 健一	屋久島山岳ガイド連盟	屋久島公認ガイドによる近自然工法による登山道整備とネットワーク 作り
7	飯盛 豊	デジタルサーフ株式会社	ネイチャーポジティブ x システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の 適用可能性
8	森田 マイコ	株式会社TREE	高校生の副教材「気候行動探究ブック」と小中学生への映像教材「小さ な声の物語」
9	松岡 美緒	特定非営利活動法人みつけ	森の学校みつけの活動紹介
10	齊藤 孝	牛久自然観察の森	ネイチャーセンターを改造したら週末の駐車場が満車になった件
11	大口 弘晃 平島 雄一郎 大槻 陸登	コメムスピ(株)サンエー印刷)	お米にまつわるさまざまな生業の方々をつながることで、 新しい価値を生み出し、日本の米づくりと農業の未来を明るくしていく コミュニティです。
12	比嘉 君枝	公益財団法人JAL財団	JAL財団の活動紹介
13	高木 幹夫	ウエスタプロジェクト	ウエスタ・プロジェクトの現在進行形
14	岡 海咲 森 恭平	認定NPO法人みちのくトレイルクラブ	東北沿岸を歩く旅の意義と効果 ～みんなで育てるみちのく潮風トレイル
15	佐藤 翔太郎	国際自然環境アウトドア専門学校	様々な専門分野を網羅する23校117学科2,300人以上の専門学校 生に半アウトドア研修を提供!
16	佐藤 和明 菊池 洋吾	環白神エコツーリズム推進協議会	環白神エコツーリズム推進協議会の活動紹介
17	高瀬 桃子	Willing Hands On	「自然学校」×「プロボノ」の可能性を探りたい!
18	西村 和代	一般社団法人エディブル・スクールヤ ード・ジャパン	学校教育を再生するための「エディブル・エデュケーション」と環境教 育の関連 -公立小学校における食育菜園の事例を通して-
19	鈴木 律子	ぐらいいん屋	第一回おうち自然学校全国フォーラム!
20	鈴木 律子	ぐらいいん屋	みんなで励まそう!ぐらいいん屋(Graphics interpreter)
21	矢田 誠	公益社団法人日本環境教育フォーラム	駐在員によるJEEFインドネシア事業報告
22	木村 佳葉	公益社団法人日本環境教育フォーラム	より多くの子と“ゆたかな”学びを共にするための教育心理学 ～発達障害の子も安心の場作りと関わり方～

今回は 22 名の参加者が発表し、聞き手側の参加者と意見交換が活発にされていた。



発表時間の後、夕食までの時間を交流の時間とした。JEEF からジャージー牛乳を提供し、話し続けた参加者がほっと一息つく時間となった。

ワークショップ

参加者自身が企画・実施者となる「参加者企画ワークショップ」と、JEEFが企画・実施した「JEEF企画ワークショップ」を計14本実施した。実施者でない参加者は自身の興味・目的に合わせて参加プログラムを選択し、各ワークショップで参加者同士の活発な意見交換が行われた。

実施されたワークショップと内容紹介は以下の通り。(実施者敬称略)

実施時間				
早朝ワークショップ	清里朝さんぽ (キープ協会)	渡り鳥に出会おう！ (安西英明)	馬の暮らし型の環境教育～ホースセラピーと発達凸凹の子どもたち (黍原豊)	
ワークショップ① 12/2 9:30～11:30	「生物多様性×自然学校」を考える (西村仁志、辻英之)	第一回おうち自然学校全国フォーラム！ (鈴木律子、黍原豊、上田桂)	竹を使って手作りまきすを作ろう♪ (齊藤隼人)	
ワークショップ② 12/2 13:30～15:30	知っておきたい生物多様性の基礎、基本 (安西英明)	学校教育＋社会教育＝持続可能な社会の創り手となる時間！ (諏訪哲郎、新井雅品、秦さやか)	隠れて見えないインパクト 気候変動をとめるキーワードを暮らしから探そう (松岡美緒)	～インタープリターズガイドブック出版記念～ 「インタープリテーション」が広げる可能性 (鳥屋尾健、山本風音)
ワークショップ③ 12/3 9:30～11:00	体験から始めるネイチャーポジティブ～子どもたちが概念を掴みやすくなる工夫～ (鴨川光、柴原みどり、木村住業)	ウェルビーイングとSDGs 二つ並べて考えてみよう (菅山リンダ明美)	見て☆描いて☆楽しむ☆ネイチャージャーナリング (小林祐輝、鈴木律子)	ネイチャーポジティブ x システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の適用可能性について (飯盛登)

12月2日(土) 7:00～8:00 (早朝ワークショップ)

◆清里朝さんぽ

八ヶ岳ブルーの青空の下、朝日に包まれながらキープ協会のレンジャーとお散歩します。清里の自然と朝の澄んだ空気で、ゆっくり朝を過ごしましょう。

実施者：公益財団法人キープ協会 環境教育事業部



◆渡り鳥に出会おう！

少し寒いかも知れませんが、冬も元気な野鳥を観察して、元気をもらいましょう。ロシアから飛来した冬鳥にも出会えるはずです。

実施者：安西 英明 (公益財団法人日本野鳥の会)



◆馬の暮らし型の環境教育～ホースセラピーと発達凸凹の子どもたち

三陸駒舎では、馬3頭と築100年を越える古民家で暮らしながら、発達障がいなどのある子ども達にホースセラピーを届けています。現在では、毎月のべ200名程の子どもたちが利用しています。

三陸駒舎の取り組みを紹介しながら、動物の力に頼った環境教育、発達障がい等を抱える子ども達に向けた取り組みのポイントについて、皆さんと考えたいと思います。

実施者：黍原 豊 (一般社団法人三陸駒舎)



12月2日（土）9：30～11：30

◆「生物多様性×自然学校」を考える

日本における「自然学校」は、1980年代以降、自然体験を学びの中心においた民間の学び舎として各地に設立されはじめました。この動きはその後、全国各地に広がり、現在は持続可能な社会の実現に向けた教育実践に取り組む拠点・組織であるという社会的な評価と期待がなされるようになってきています。

このワークショップでは全体会の議論をふまえながら「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の達成にむけて自然学校が果たす役割について、自然学校の研究と実践に長く関わってきた二人のJEEF理事がワークショップを展開します。

実施者：西村 仁志（広島修道大学人間環境学部）

辻 英之（NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター）

松尾 章史（NPO 法人ホールアース自然学校）



◆第一回おうち自然学校全国フォーラム！

「すべての答えは、おうちにあった！？」去年の清里ミーティングでふってわいた「おうち自然学校」というキーワード。ピン！ときた4人が、フルリモートでの1年間の準備期間を経て、それぞれの事例を持ち寄りながら更なるネットワークづくりを求め、地域や血縁を超えた親戚づくりをスタート。これからの日本型環境教育をおうち（足元のくらし）から模索しましょう。

実施者：鈴木 律子（ぐらいいん屋）

黍原 豊（一般社団法人三陸駒舎）

上田 桂（Donan 自然学校）



◆竹を使って手作りまきすを作ろう♪

東京都檜原村で地域おこし協力隊をしている齊藤隼人(はやとん)です。昔は生活のあらゆる道具に竹が使われていました。しかし現在は、安く大量に生産できるプラスチック素材の道具があふれています。成長が早い竹を利用してきた生活は、まさに持続可能な暮らしであると感じています。2年ほど前、地域のおじいちゃんと一緒に、門松を作ったことをきっかけに竹に興味をもつようになりました。野外で竹筒ご飯をしたり、竹で箸や灯籠、かごを作ったりと最近竹にはまっています。今回は、竹を割ったり剥いたりしながら細くして、まきすを作りたいと思います！年末の巻き寿司作りに、手作りまきすを使ってみませんか♪

実施者：齊藤 隼人（檜原村地域おこし協力隊）



◆知っておきたい生物多様性の基礎、基本

そもそも生物とは？命とは？多様性とは？
ネイチャーポジティブの基本「生物多様性って何？」を学ぶ時間です。
野外の生きものの観察と座学から、基礎・基本の知識を共有します。

実施者：安西 英明（公益財団法人日本野鳥の会）



◆学校教育+社会教育=持続可能な社会の創り手となる時間！

学習指導要領の前文で、子どもたちが「持続可能な社会の創り手となる」ことが学校教育の目標に掲げられました。それを実質化するには、そのための時間の枠と、社会教育関係者の参画は不可欠です。どのようにすれば、時間枠の確保が可能になるのか、学校教育と社会教育の合体が可能になるのかを参加者と共に考えます。

実施者：諏訪 哲郎、新井 雅晶、秦 さやか（西田子ども未来研究会）



◆隠れて見えないインパクト 気候変動をとめるキーワードを暮らしから探そう

このワークショップは、子どもたちと室内でできる持続可能な暮らしをデザインするためのワークショップです。特定非営利活動法人みつけ(森の学校みつけ)は、地球と子どもの未来をつくるため、様々な動植物が生息する「食べられる森」を作っています。土壌や気候、自然環境や資源を活かした、多種多様な植物が共生する環境を整える時、人と自然が共同創造する森づくりの活動を通して、人間が地球の恵みによって生かされていること、また心が豊かになる暮らしを自分たちで創り出せることを体験的に学ぶことができると信じています。

ただ、1つ1つの暮らしがどれだけ気候変動に寄与しているかは隠れて見えない要素が多いのが現場です。火おこしや魚釣りなど自然体験を重ねたあと、体験した感覚をもう少し活かすと、「ゴミ拾い」や「節水」だけではない「自分たちができる地球に優しいこと」に向き合うことができます。

キーワードを探したり、意味を考えたりしながら、どんな暮らしに変えたら地球に優しくなるだろう？と想像力を働かせてみましょう。

実施者：松岡 美緒（NPO 法人みつけ）



◆～インタープリターズガイドブック出版記念～「インタープリテーション」が広げる可能性

「インタープリテーション」は、人と自然・人と人をつなぐコミュニケーションの技術です。今年8月、「インタープリターズガイドブック～意味の探求を促すガイドの技術」日本語版が出版されました。この本は、アメリカの国立公園のレンジャーの教科書ともいえます。

本ワークショップでは、まず、多種多様なインタープリテーションの実践を40年間続けてきた(公財)キープ協会のショートプログラムを体験します。その後、記者である山本風音さんが、本著作の視点にそって体験を解説。それらを踏まえ、「インタープリテーション」が広げてくれる多様な可能性を模索します。



インタープリテーションは、国立公園やネイチャーセンター、博物館・美術館・動物園や水族館、観光や地域づくりの分野でも広く参考になるアイデアです。

実施者：鳥屋尾 健（公益財団法人キープ協会）

山本 風音（NPO 法人当別エコロジカルコミュニティ）

12月3日（日）9：30～11：00

◆体験から始めるネイチャーポジティブ～子どもたちが概念を掴みやすくなる工夫～

サステナブル、生物多様性、ネイチャーポジティブなど、大人たちが掲げる概念は、子どもたちにとって掴みにくいもの。そこで、JEEFではGEMSという科学と数学の体験学習プログラムを用いて、体験から始める環境教育を実践しています。

今回実施するのは、地球全体を俯瞰するプログラム。りんごを地球に見立て、地球全体の1/4が陸地、陸地のさらに半分は人が住める土地...と切っていくながら、わたしたちが住んでいる土地がどれだけ希少か体験的に気づいていきます。プログラム終了後には、実施のポイントや体験から概念につなげる工夫を紹介します。

実施者：鴨川 光、柴原 みどり、木村 佳葉（ジャパンGEMSセンター）



◆ウェルビーイングとSDGs 二つ並べて考えてみよう

SDGsとwell-being。いろんなところでよく聞きます。この2つ、いったいどう関連して、どう結びついて、どう離れているのか。とことん考えてみようというワークショップです。

気になった、掘り進みたいと思っている、これを機会に学んでみたいという方、参加をお待ちしております。

実施者：菅山 リンダ 明美（株式会社ハッピーエンジン）



◆見て☆描いて☆楽しむ☆ネイチャージャーナリング

ネイチャージャーナリングを知っていますか？自然をスケッチする手法ですが、ただ絵を描くだけではありません！スケッチをしながら気づいたことや、不思議に思ったこと、思いついたことをスケッチの中に書き込みながら自然を観察する方法です。しかも、ジャーナルという言葉が示すように、日付、時間、場所、天気などの記録も書き添えていくので、スケッチが増えていくと、自分がどこでどんなものを描いてどんなものに関心を持ったかがわかる日記になります。このネイチャージャーナリングのワークショップでは、この手法の基盤となる考え方のお話しをしてから、実際にジャーナリングをしてみたいと思います。ご興味がある方はぜひご参加ください！

実施者：小林 祐輝（静岡県立川根高等学校）、鈴木 律子（ぐらいん屋）



◆ネイチャーポジティブ x システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の適用可能性について

ネイチャーポジティブへ取組むには、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー3つの要素間の関係性を総合的且つ全体俯瞰で捉える必要があります。システムデザインとは、これら3つの要素をシステムと捉え、その要素の持つ意味、

価値、目的、機能、ダイナミクス、地域環境、地球環境等、その要因間の関係性を可視化することで、予測させる「トレードオフ」や「シナジー」を事前に予測し、人間の介入ポイントを明確化することにあります。そして、対象となるシステムを創造的にデザインし、プロトタイプ検証を重ねることで実現のための「構想提言」や「アイデア提言」を目指します。

今回のワークショップでは、上記要素の土台となる「システムズエンジニアリング」及び「システム思考」と「デザイン思考」の簡単ワークを体験して頂くと共に「めぐるがみえる南三陸町」の適用可能性についてお話させていただきます。是非お気軽にご参加ください。

実施者：飯盛 豊（デジタルサーフ株式会社）



閉会

最後は新館ホールで阿部理事長から閉会の挨拶のあと、レストランでさよならパーティーを行った。コロナ禍を経て、オンラインの活用が一般化したことで便利な一方、直接対面して初めて感じられるものもあると改めて感じる会となった。参加された皆様がそれぞれ得たものを持ち帰り、新しい発展に今後つながっていくことを期待したい。

清里ミーティングはこれからも継続して、環境教育等に関心のある方たちにとって有益な学びの場・交流の場をつくっていく。



その他の企画

参加者同士の交流を促すために、下記を行った。

◆参加者専用ページの開設

清里ミーティングのウェブサイト内に、参加者のみが閲覧できる専用ページを開設した。ページには参加者リスト（プロフィール集）、参加の事前資料、ワークショップや送迎バスの参加エントリーフォームなどを掲載した。

また、プロフィールは会期中・終了後も順次更新し、開催後には全体会ゲストの登壇資料もアップロードした。

プロフィール集はオンラインプロフィールページ「Proff」のサービスを使い、参加者が各自で情報を登録。URLを事務局にお知らせ頂き、参加者の間でのみ「一覧」を閲覧できるかたちで配信した。

Proff ページサンプル



◆オプションツアー企画

2日目午前と午後のワークショップの間の昼食は少し長めにとった。ワークショップのふりかえりをゆっくりする人。お土産を見に、あるいは名物のソフトクリームを食べに行く人。前日の夜遅くまで交流していたので少し休憩している人。参加者は各々、好きに時間を使っていた。

そして初参加の方のために、この時間でキープ協会によるオプションツアーとして、「牧場見学コース」と「ヤマネミュージアム見学コース」の2本を実施した。



◆インフォメーションコーナー

本館通路にインフォメーションボードを設置し、事務局や参加者が持ち寄ったチラシや資料を自由に配布した。

◆協賛団体ブース

清里ミーティングへご協賛いただいた企業・団体様の紹介ブースを本館ホール内に設置した。協賛団体は開会式で紹介。ブースには会期中、空き時間などを利用して参加者が資料を閲覧する様子が見られた。

◆情報交換会

1日目、2日目ともに夕食の後は本館ホールで情報交換会を開催した。参加者からの差し入れや、キープ協会がバーを開店し、飲み物を販売。参加者は思い思いに交流した。人を紹介する「コンシェルジュデスク」や「リクルートコーナー」、日能研のショップ「ちえの木の実」を出店。プログラムに使える絵本などを興味深げに見ていた。途中、安西英明氏（JEEF 理事）による星空観察会も実施し、好評につき2日目の夜にも行われた。

情報交換会は 22 時に終了。二次会はハンターホールに会場を移し、夜遅くまで熱い議論と交流が活発に行われた。



清里ミーティングこれまでの実績

第1回清里フォーラム

- 日時：1987年9月28日(月)～29日(火)
- 参加人数：93人
- 主催：清里フォーラム実行委員会
- 【分科会】①環境教育について（考え方とその論理）
②自然観察の中に今後とりこんでいきたいもの
③指導者とボランティアの養成を今後どうするか
④施設運営とコーディネーターの在り方について
⑤自然観察の有料化について
⑥清里フォーラムの将来性・方向性について
- ゲスト：加藤幸子（小池しぜんの子）

第2回清里環境教育フォーラム

- 日時：1988年11月13日(日)～15日(火)
- 参加人数：151人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
- 後援：環境庁／山梨県
- 【分科会】
前半 ①学校と環境教育 後半 ①地域・開発と環境教育
②地域社会と環境教育 ②施設と環境教育
③施設と環境教育 ③人づくりと環境教育
④自然観察と環境教育 ④市民・行政・企業・学校の協力
⑤企業と環境教育 ⑤環境教育の目的と方法
⑥学校と環境教育
⑦企業と環境教育
- ゲスト：ロバート・ピナウィーズ（元ヨセメテ国立公園管理事務所長）

第3回清里環境教育フォーラム

- 日時：1989年11月12日(日)～14日(火)
- 参加人数：168人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①小中高における環境教育カリキュラム
②若い世代に楽しいプログラムとは
③環境教育をうまく経営していくためには
④環境教育の場でボランティアが活躍できるためには
⑤環境教育で村おこしができるか
⑥大学における環境教育
- ゲスト：ジェームス・サノ（元マリーナ・ディスカバリーズ専務理事）

第4回清里環境教育フォーラム

- 日時：1990年11月18日(日)～20日(火)
- 参加人数：163人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①学校教育 ②事業化
③プログラム ④人づくり
⑤施設 ⑥地域開発・村おこし
- ※この年4月より上記6つの研究部会が発足。
- ゲスト：ジョセフ・コーネル（ネイチャーゲーム考案者）

第5回清里環境教育フォーラム

- 日時：1991年11月17日(日)～19日(火)
- 参加人数：187人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①学校 ②事業化 ③プログラム
④人づくり ⑤施設 ⑥地域社会
- ゲスト：ステイブ・メドレー（ヨセメテ・アソシエーション会長）
- ※1992年9月 任意団体 日本環境教育フォーラム発足
- ※1992年7月 「日本型環境教育の提案」発刊

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '92(通算6回)

- 日時：1992年9月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：132人
- 主催：日本環境教育フォーラム設立準備会
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【紹介WS】①エコツアー報告・ヨセメテ自然学校
②New School of Conservationにおける環境教育
③ペンギンリザーブ活動報告
④国際理解教育・資料情報センター活動紹介
⑤フィールドミュージアムごっこ
⑥環境教育国際セミナーに参加して
⑦成城学園における「散歩」遊び
- 【体験WS】①さあ、みんなでやってみよう！開発教育シミュレーション
②エコロジーキャンプつまみぐいハイク
③ネイチャーゲーム入門
④もしフィールドでけがをしたら
⑤PLTプログラムの紹介
- 【分科会】①学校での環境教育
②地域に根ざした環境教育
③エコツーリズムの可能性とその問題点
④環境教育のプログラム教材開発
⑤指導者養成について
⑥エコマネジメントのしかた

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '93(通算7回)

- 日時：1993年11月14日(日)～16日(火)
- 参加人数：154人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②死の準備教育の試み
③マインドクロッキー④パートナーシップへの挑戦
⑤究極の自然観察会 ⑥たずね鳥をさがせ
- 【分科会】①プログラム ②施設 ③学校
④人づくり ⑤企業 ⑥地域・自治体
⑦エコツーリズム ⑧海外の国立公園情報
- ゲスト：アン・ロベッタ（ストーリーテラー）

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '94(通算8回)

- 日時：1994年11月27日(日)～29日(火)
- 参加人数：167人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②ファイブ・トリック
③森の宝箱をつくろう ④地球救出作戦
⑤枯れ木に花を咲かせましょう ⑥清里・冬物語
- 【分科会】①企業 ②エコツーリズム ③都市環境教育 ④ネイチャー
トレイル ⑤自然学校 ⑥ネイチャーライティング ⑦フォーラム塾
- ゲスト：ジョン・エルダー（ミドルベリー大学英語学・環境学教授）

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '95(通算9回)

- 日時：1995年11月25日(土)～27日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①自然学校としての施設づくり②行政・自然学校
③自然学校の経営を考える ④自然学校の人材育成
⑤自然学校のプログラム
- 【WS】①写真で環境教育 ②あなたにとって出合いとは何ですか
③環境教育を企画・プロデュースする
④ソフトクリーム姉ちゃんをねええ！
⑤未知なる可能性を求めて
⑥キープ・フォレスト・スクールのプログラム体験
⑦ネイチャーゲーム、アジアと環境教育
⑧独特な日本人に有効な環境教育戦略は？
⑨アース・アート ⑩メディアワークショップ

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '96(通算10回)

- 日時：1996年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：174人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①自然学校の「事業化」
②自然学校でのプログラム
③地域振興と環境教育
④環境保全活動がそのまま環境教育
⑤エコツーリズムの様々な可能性
⑥JEEFの法人化など今後の可能性
- 【ワークショップ】
①ネイチャーゲーム入門講座
②ネイチャーエクスポアリング
③清里での川の環境教育を考える
④「子供であそぼう」についての御紹介
⑤元気がでる自然観察
⑥環境教育の本質を考える
⑦環境教育を企画・プロデュースする
⑧清里で「海の環境教育」を考えよう
⑨自然をテーマにしたスライドショー
⑩自分への気づきとNGO
⑪清里インターネット通信社へようこそ
⑫森だくさんの自然体験
⑬まちを遊ぼう
⑭未知なる可能性を求めて
⑮エコビレッジを作ろう
⑯アクティビティの「バクリとアレンジやローカライズ」

※1997年4月 環境庁主管の法人格を取得、社団法人日本環境教育フォーラム設立

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '97(通算11回)

- 日時：1997年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：170人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／山梨県
- 【分科会】①環境教育の指導者養成
②環境教育の新しいプログラム開発
③環境教育とまちづくり
④環境教育の情報の発掘と提供
⑤企業や行政とどのように組み合わせる？
⑥新しい交流集会のスタイル
- 【WS】①ネイチャーゲーム入門講座
②自然と心・心とひとのコミュニケーション
③環境教育の服装計画を考える
④出たとこ勝負の自然観察会+人間ウォッチング
⑤環境教育を企画プロデュースする
⑥環境教育と経営と税金

- ⑦インタープリティブサインをつくらう
- ⑧ディープエコロジー・ミニワークショップ
- ⑨フィリピン流！演劇ワークショップのすすめ
- ⑩安全管理チェックリストをつくらう
- ⑪ネイチャーエクスプロアリングコースづくり
- ⑫水辺でさがすいろいろなつながり
- ⑬アクティビティと小道具
- ⑭キープの自然体験プログラム
- ⑮博物館をつくらう！
- ⑯野外における企業研修の実践とその可能性

【社】日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '98(通算 12 回)

- 日時：1998 年 11 月 14 日(土)～16 日(月)
- 参加人数：176 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①公共事業における環境教育の役割
 - ②森林・里山における環境教育と地域振興
 - ③アメリカの環境教育プログラムの日本への導入
 - ④動物と関わる環境教育
 - ⑤日本型エコツーリズムについて
 - ⑥メディアと環境、その先にあるもの
- 【ワークショップ】
 - ①環境教育個人商店を考える
 - ②私のきもち、みんなのきもち、地球のきもち
 - ③21 世紀のインタープリテーションを求めて
 - ④おきらく やまのぼの部屋
 - ⑤プロジェクトワイルド「水生生物」に学ぶ
 - ⑥エコマネーのすすめ
 - ⑦もし参加者が野外でケガをしたら
 - ⑧ネイチャーエクスプロアリング
 - ⑨エコスピリチュアルワークの試み
 - ⑩アクティビティ大賞実施編・体験編
 - ⑪これまでの 50 年とこれからの 50 年
 - ⑫川を設計してみよう
 - ⑬「おもい」を「かたち」にはじめの一步
 - ⑭自然学校でめしが喰えるか

【社】日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '99(通算 13 回)

- テーマ：「学ぶ心・育つ力」
- 日時：1999 年 11 月 13 日(土)～15 日(月)
- 参加人数：185 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①自然学校の運営を考える
 - ②「総合的な学習の時間」で学校と地域をつなぐ
 - ③都市型の生活環境をテーマにした遊び場づくり
 - ④森から見つめる川と海
 - ⑤エコツーリズム一歩前へ
 - ⑥見つめよう地域の里山、伝えよう里山の魅力
 - ⑦チルデンを越えろ！
 - ⑧教育を考える
- 【早朝 WS】
 - ①カラスのきもち
 - ②朝のディーツタイム
 - ③きもちとキモチをつないだら
 - ④五感で感じよう清里の自然
 - ⑤オカリナ・ハナリナ体験教室

【社】日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2000(通算 14 回)

- テーマ：「原点を見つめよう」
- 日時：2000 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：171 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①野外での救急法を覚えよう
 - ②ネイチャーウォッチング in 清里
 - ③清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ④心と体で感じよう！ネイチャーゲームが案内する清里の自然
 - ⑤竹を使ったものづくり
 - ⑥羊の毛から糸つむぎ教室
 - ⑦自分という自然に出会う
 - ⑧Frog (カエル)
 - ⑨プロジェクト・アドベンチャー
- 【分科会】
 - ①自然体験活動における体験学習法
 - ②ゆったり楽しむ ノスタルジーワーク
 - ③虫を知る・入門
 - ④「センス・オブ・ワンダー」って何だ？
 - ⑤学校ピオトープの可能性
 - ⑥五感を使って楽しみながら自然探検
 - ⑦環境教育とスピリチュアリティ
 - ⑧企業・行政マン向け環境教育テキスト作り
 - ⑨自然学校の P R 活動を考える
 - ⑩Out of Treasure Boxes
 - ⑪民話・ことわざから考える日本人と川の関係
 - ⑫エコツーリズムのビジネスネットワークを考える
 - ⑬表現を楽しもう！「シアターゲーム」
- 【早朝 WS】
 - ①野遊び手遊び発見隊
 - ②センス・オブ・ワンダーの体験
 - ③地球と私の合作づくり “1 枚の葉”

- ④見て、聴いて、感じて・・・朝の森でハイゲーム
- ⑤早朝ジョギングワークショップ
- ⑥キモチときもちをつないだら

- スライドプレゼンテーション
- JEEF 理事による 3 分トーク

【社】日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2001(通算 15 回)

- 日時：2001 年 11 月 17 日(土)～19 日(月)
- 参加人数：192 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／農林水産省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ②初心者歓迎！清里の自然をネイチャーゲームで楽しもう
 - ③秋の味覚を楽しもう！
 - ④「ほっ♪」となるたき火講座
 - ⑤身体感覚講座
 - ⑥The Bear (ひぐまの生き方、暮らし方)
 - ⑦プロジェクト・アドベンチャー
 - ⑧やまねミュージアムへ行こう
- 【分科会】
 - ①総合的な学習の教材として「拾ったもの(生きもの)に関連するもの」を活用する
 - ②「いまだき」の子ども・「いまだき」の親 改造計画！
 - ③博覧会を環境教育という視点から評価する
 - ④ゆったり過ごすやまね流ネイチャーワーク
 - ⑤ワークショップという新しい学び方をめぐって
 - ⑥朝からイキナリ！若者で語ろう！の会
 - ⑦小さな子どものための環境教育の“技”をさぐる
 - ⑧地域の昔話を中心にした環境教育
 - ⑨農業と林業を語ろう！農業者と林業者と語る環境教育
 - ⑩Environmental Education in English
 - ⑪北九州博、きらら博で行われた環境教育プログラムはこれだ！
 - ⑫テロ・戦争に関してわかちあう
 - ⑬環境教育基礎講座
 - ⑭GEMS の体験プログラム
 - ⑮自然学校で働くこと
 - ⑯センス・オブ・ワンダー
 - ⑰ネイチャーエクスプロアリングライトの体験と総合的な学習の時間に活かせる活動事例
 - ⑱田んぼから生まれる日本型環境教育
- 【早朝 WS】
 - ①センス・オブ・ワンダーを楽しむ
 - ②早朝ジョギングワークショップ
 - スライドプレゼンテーション
 - 参加者による 3 分トーク 「ここが変だよ！環境教育」

【社】日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2002(通算 16 回)

- テーマ：「胎動」
- 日時：2002 年 11 月 16 日(土)～18 日(月)
- 参加人数：182 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 環境教育ミニレクチャー
- ヨハネスブルグ・サミット報告
- 参加者による 3 分トーク 「環境教育 次のキーワードはこれ!!」
- 【ワークショップ】
 - ①地域通貨ってなんだろう？
 - ②折り紙を使った環境教育の試み(3)
 - ③幼稚園、保育園に環境教育を導入しよう
 - ④環境問題、エコロジカルアートからの試み
 - ⑤環境教育指導者と研究者、カリキュラム開発者のつながりを作ろう
 - ⑥体験主義を超えて・・・プロジェクト・ワイルドの世界
 - ⑦「自然の中で働く男性はオパチャン度が高い??」を証明したい!!
 - ⑧未来へ、世界へ、感動をどうつなぐのか
 - ⑨ひよこのキモチ
 - ⑩モアイは何を見たか
 - ⑪Environmental Education in English
 - ⑫持続可能な開発と環境教育
 - ⑬森の交響サイン計画づくり
 - ⑭サロンの語り場
- 【早朝 WS】
 - ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②清里ミニガイドツアーA
 - ③清里ミニガイドツアーB
 - ④モンゴル茶で朝を迎えよう
 - ⑤清里ミニガイドツアーC
- スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2003(通算 17 回)

- キーワード：持続可能な開発のための教育
- 日時：2003 年 11 月 15 日(土)～17 日(月)
- 参加人数：208 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 【全体会】
 - ・科学と環境教育をつなぐミーティング (前夜祭) の報告
 - ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律
 - ・持続可能な開発のための教育 (ESD)
 - ・スライド&トーク -オロロニの日々-

【WS&体験 PRG】

- ①ワラっていいとも
 - ②社会教育ゲーム体験プログラム 投資意志決定ゲーム Chemical
 - ③参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/AM
 - ④総合学習へのNPO参画が期待されているけど、実現が難しいのは何故?
 - ⑤エコ・ネイショングーム
 - ⑥忙しい!!! けど前向きに レパルアップシートを作ろう
 - ⑦科学するココロを育てよう!
 - ⑧参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/PM
 - ⑨野生生物教育の現状と課題
 - ⑩フォーラム企業部会をリセットして、今後の方向性を考えよう!
 - ⑪「持続可能な人」づくり
 - ⑫開府400年! 江戸町民の循環型社会から学ぶごみ減量大作戦
 - ⑬どうなる? どうする? 日本環境教育フォーラムの未来
 - ⑭子育てという環境
 - ⑮地方発! 食農発信!
 - ⑯環境教育の中の行政の役割を考えよう!
- 【早朝 WS】
- ①センス・オブ・ワンダー
 - ②清里ミニガイドツアー 富士山とせせらぎの小径コース
 - ③清里ミニガイドツアー ぬしの木コース
- スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング2004(通算18回)

- キーワード:「持続可能な開発のための教育の10年」夜明け前
 - 日時:2004年11月13日(土)～15日(月)
 - 参加人数:187人
 - 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
 - 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- ・【全体会】
- ・「持続可能な開発のための教育の10年」夜明け前
 - ・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を考える

【WS&体験 PRG】

- ①エコツーリズムという生き方
- ②科学と環境教育
- ③地場産小麦でパンをつくろう!
- ④環境立国 エコ・ネイショングーム
- ⑤「センス・オブ・ワンダーからグリーンコンシューマーへ」
～第1回清里「エコ商品コンテスト」～
- ⑥持続可能な地域づくりにつながるネイチャーゲーム体験
- ⑦体験学習への扉をひらく(午前の部)
- ⑧自然学校の動きと人材養成
- ⑨環境教育 in 国際協力 最前線!
- ⑩環境教育基礎講座「環境教育と自然体験」
- ⑪酵母を育てて、パンを作ろう!
～酵母が教えてくれる、命、自然とのつながり～
- ⑫石器時代に接近! モノはこうして作る ～シエラカップ～
- ⑬いのちを伝える自然体験
～自分流健康な生きかたを学ぶ～
- ⑭ボードゲーム型の環境教育プログラム
- ⑮体験学習への扉をひらく(午後の部)
- ⑯「1億円のプロデュース」

【特別ワークショップ】

バーム油のはなし ～開発教育入門講座～

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②センス・オブ・ワンダーって、こんなに楽しく気持ちいい
 - ③清里ミニガイドツアー ぬしの木コース
- スライドプレゼンテーション・5分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 公開理事対談

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング2005(通算19回)

- キーワード:「自然を舞台にした環境教育は、持続可能な社会づくりに具体的にどのように役に立ってきたのか」
 - 日時:2005年11月19日(土)～21日(月)
 - 参加人数:221人
 - 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
 - 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会:基調講演、5分間スピーチ、パネルディスカッション
- 【WS&体験 PRG】
- ①環境教育基礎講座(午前の部)
 - ②自然学校って何だ?
 - ③学校教育と環境教育
 - ④ボードゲーム型の環境教育プログラム
 - ⑤ひとりひとりの感性で自然を感じよう
～ネイチャーゲームでのんびりぶらぶら～
 - ⑥セルフガイドシートを使用した、短時間、多人数対象プログラムの検証 ～セルフガイドシートの評価軸を作ろう～
 - ⑦科学ってなんだろうと考えながら皆で遊ぼう!
～低学年向けのGEMSプログラムを通して～
 - ⑧森林療法
 - ⑨プロジェクトWET体験会(午前の部)
 - ⑩環境教育基礎講座(午後の部)
 - ⑪自然学校の評価に向けた人材養成
 - ⑫小さな町村での自然学校の役割と可能性を探る
 - ⑬CSRと環境教育
 - ⑭おいしく食べ続けていける社会づくりは……
 - ⑮里山で音楽会
 - ⑯樹木年輪から樹の声を聴く方法! ～過去からの環境の変化を辿る～
 - ⑰プロジェクトWET体験会(午後の部)
 - ⑱科学と環境教育 見直そう! あなたのインタープリテーション

【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ

- ②座禅&ヨガ
 - ③清里ミニガイドツアー
- スライドプレゼンテーション・5分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 活動報告

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング2006(通算20回)

- 日時:2006年11月18日(土)～20日(月)
 - 参加人数:224人
 - 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
 - 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会「日本の環境教育 この20年を振り返る」基調講演
- 学長鼎談「大学と環境教育」

【WS&体験 PRG】

- ①自然学校を事業化する
～20年間に自然学校は何を獲得したのか～
- ②団体・組織におけるリスクマネジメントを考える
- ③あなたにとって食育ってなに?
- ④環境教育基礎講座
- ⑤新型の起業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
- ⑥学びとコミュニケーション
～GEMSプログラムの体験を通して～
- ⑦ESDの実践のポイントを探る
～みんなで話せばわかってくる!～
- ⑧森林環境教育のすすめ ～木が好きになるプログラム～
- ⑨50分プレゼンテーション(午前の部)
- ⑩企業とNPOとの協働を考える戦略会議
- ⑪環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)の関係性を探る
- ⑫環境教育と地域づくり
- ⑬環境教育仕事塾
- ⑭行政との連携を考える
- ⑮太鼓で太古に退行するぞ!
- ⑯木から樹を知る方法 ～木材をIPにいかす～
- ⑰セルフガイドで使えるしかけ展示のモデルをつくろう
- ⑱50分プレゼンテーション(午後の部)
- ⑲自然への感動を生み出し、ライフスタイルの転換を促す科学的知識の伝え方
- ⑳感性?科学?どっちのインタープリテーションショー

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②環境質問 ～答えのない問題～
 - ③ロシアからやってきた冬鳥を探してみませんか
 - ④清里ミニガイドツアー
 - ⑤清泉寮 朝さんぽ
- 環境ショート映像作品上映会
- 今後の戦略会議
- スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング2007(通算21回)

- 日時:2007年11月17日(土)～19日(月)
 - 参加人数:230人
 - 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
 - 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
 - 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
 - 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 省庁プレゼンテーション
- 全体会:「生物多様性」基調講演
・第3次生物多様性国家戦略が指すもの
・企業が取り組む生物多様性保全

【ワークショップ】

- ①「生物多様性」の見つけ方・伝え方
～自然体験活動を、生物多様性保護の教育活動に結びつける実際の方法～
- ②行政との協働を考える
- ③学ぶ環境としてのコミュニケーション ～GEMSとゴードンメソッド～
- ④食育コミュニティをつくろう!
- ⑤どこでもインタープリテーション! ～グッズ展開型IP～
- ⑥関西発! これからは日本的でいいぞ!!
- ⑦新型の企業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
スピード・ソリューション～自然学校版～
- ⑧企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑨ツリークライミング? 樹上の世界から学ぶこと
- ⑩50分プレゼンテーション
- ⑪企業と環境NPOとの協働を進める戦略会議
- ⑫ESDを広める人のための「ESD入門講座」
- ⑬環境教育基礎講座
- ⑭生物多様性と環境教育について
- ⑮科学と環境教育 自然体験からライフスタイルの転換へ
～ヤマネのプログラム体験を通じて～
- ⑯メディアと自然学校
- ⑰環境経営戦略ゲーム体験会
- ⑱体験型展示物を評価しよう
- ⑲エコツーリスト予備軍を探せ・つかめ・そして楽しめ!
- ⑳障害者と共に楽しみ・学ぶ森林環境教育
- ㉑やってみよう!!体感ツリークライミング㉑の世界

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②センス・オブ・ワンダーを楽しむ散歩
 - ③清里ミニガイドツアー
- 今が旬の活動事例紹介
- スライドプレゼンテーション
- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2008(通算 22 回)

- 日時：2008年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会：「日本型環境教育の知恵 出版記念」～日本型環境教育とは～

【ワークショップ】

- ①科学と環境教育 ヤマネに学ぶエコロジカルな暮らし方
- ②生き物との共生について ～どんな共生があるのか～
- ③環境教育&ESDを「広げる×深める」政策を考える
- ④お互いの関係を作るコミュニケーションスキル
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ！
- ⑥エコとエネをつなぐ環境教育を考える
- ⑦森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑧環境教育を評価する「環境教育を棚卸しましょう」
- ⑨企業・NPO・学校の連携による環境教育を考える
- ⑩企業のための環境 NPO カタログ編集会議
- ⑪どうする！《限界集落》またの名は《上流社会》
- ⑫科学と環境教育総編 科学と環境教育の関わりを定義する
- ⑬オオバコすもうで勝つ方法！理学系研究室の自然体験
- ⑭川遊びのルールを広めよう
- ⑮日本型、日本的を考える ～日本の自然観という視点～
- ⑯地球環境カードゲーム マイアースを選び尽くす
- ⑰障害者と共につむぐ環境教育の企画をつくる！
- ⑱森づくりのための戦略会議 ～行政・企業・NPOの協働～

【早朝 WS】

- ①砂鉄から鉄を作ろう！ 柏崎の製鉄遺跡と自然のかかわり
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ③清里の森で宝物発見
- ④ロシアから渡ってきた鳥と出会しましょう
- ⑤清里ミニガイドツアー

■環境教育プレゼンテーション

- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

■全体会

- ・基調講演「生物多様性条約第10回締約国会議の結果」
- ・提案「生物多様性保全に果たす ESD の取組について」
- ・提案「What is CEPA?」
- ・取組紹介「環境省における ESD の取組について」
- ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②日本の自然観から考える環境教育
- ③農的暮らしの学校
- ④自然感を耕す：人は心を、畑は土を、森はデザイン感を
- ⑤生物多様性まんだらカードゲーム体験会
- ⑥生物多様性条約の CEPA って何だ？
- ⑦企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑧エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part3
- ⑨「サステナビリティ」の基本はこれだ！ ※
- ⑩これだけは知っておきたい！生物多様性の基礎知識 ※
- ⑪生物多様性を普及する環境教育を目指して
- ⑫森を考える～木質バイオマスで100年先の森づくり～
- ⑬大学生のための食育プログラム
- ⑭命をいただく～ワトリと生きる～
- ⑮エコロジカル・シンキングゲーム
- ⑯「地球交響曲第7番」を見て、みんなで語ろう！
- ⑰イナカとこどもと日本の未来を考える
- ⑱企業の行なう自然体験活動と地域のつながりを考える

※の印は、主催者企画ワークショップ

(注) ⑨海外での環境教育(保全)活動を日本でどう伝えていくかは、都合により中止

【早朝 WS】

- ①バードコールハイク
- ②多様性を感じる観察会
- ③ゼロからの火おこし術
- ④朝飯前の手仕事
- ⑤朝日をあびつつ、ミルクティー飲んでごあいさつ
- ⑥生き方を学ぶ自然観察
- ⑦ノルディックウォークで早朝散歩
- ⑧映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ⑨みみをすませば～みんなでつくるいのちのものがたり～

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2009(通算 23 回)

- テーマ：「生物多様性」～環境教育の役割～
- 日時：2009年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：193人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会

- ・基調講演「生物多様性」とは何か？ 行政・企業・NGO から
- ・事例紹介「生物多様性 私はどう伝える」
- ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座
- ②多様な生物の声を聴く～全生命の集いワークショップ～
- ③科学的な視点を活かした環境教育のプログラム作り
- ④企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ！Part2
- ⑥風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑦バーマカルチャーと環境教育
- ⑧幼児～小2に伝える生物多様性の形を探る～
- ⑨ビクターセンターを運営側から考え創る方法
- ⑩あなたにとって、生物多様性って何？
- ⑪生物多様性に焦点を当てたプロジェクト・ワイルド体験
- ⑫人間界に多様性は確保されているか
- ⑬日本の森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑭どうプログラム化しよう？自然学校の「エネルギー」
- ⑮風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑯日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑰エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part2
- ⑱事故防止～注意を促すだけでいいの？実践的予防安全法
- ⑲トランジションタウンとは何か？都留での試み

(注) ⑦川遊びを始めよう！～川の安全管理トレーニング～ は、都合により中止

【早朝 WS】

- ①生物多様性を映像で感じよう ～いっしょに生きる道～
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ③ゼロからの火おこし術

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

※2010年6月 公益社団法人への移行認定を取得、公益社団法人日本環境教育フォーラムへ。

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2011(通算 25 回)

- テーマ：「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」
- 日時：2011年11月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：188人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／経済産業省／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会1

- ・パネルディスカッション
- 「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②企業・NPO・学校連携の環境教育を考える VOL.2
- ③質的データ分析(QDA)という手法を学ぶ
- ④農的暮らしの自然学校
- ⑤森林療法にできること～森林セルフケアの可能性
- ⑥里山応援ネットワークを作ろう！ワークショップ
- ⑦0から仕事を作る～体験からチームを作る～
- ⑧『ワールドカフェ～自分発！未来をかける価値観考へ』
- ⑨修験道×環境教育～音色と歩き、体で精神性を感じる～
- ⑩震災救援組織(RQ市民災害救援センター)の作り方 ※
- ⑪ESD×CSR：サステナビリティ教育指針を体感！ ※
- ⑫やったらできた！エネルギー系企業と弱小NPOのコラボ
- ⑬環境と文化・歴史・科学etc.の複合…「旧暦」入門
- ⑭自然感を耕す 自分と里地里山里水が元気になるワーク
- ⑮生物多様性まんだらカードゲーム 今年小学生版
- ⑯PLT, WILD, WETの日本での可能性を考えよう
- ⑰日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱原発と環境教育～思ったことを話すことからはじめよう～
- ⑲狩猟×環境教育～森と野生動物と人のつきあい方～

※の印は主催者企画ワークショップ

【早朝 WS】

- ①ゼロから始める火起こし術
- ②森林療法のプログラム体験～樹林気功と運動療法
- ③冬鳥と出会って、いのちを感じる
- ④キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2012(通算 26 回)

- テーマ：「アジアの一員として、日本が今できること ～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- 日時：2012年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益社団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2010(通算 24 回)

- テーマ：「いのちをつなぐ環境教育」
- 日時：2010年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁

■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- 「アジアの一員として、日本が今できること
～think global act local: 『リオ+20』の年に考える～」
- ・基調講演「リオ+20の概要と、NGOの成果と課題」
- ・パネルディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育入門講座
- ②自然学校人事担当養成講座～ほしい人材を育てよう～
- ③実施無し
- ④ブーさんの森をデザインしよう！
- ⑤考えよう！伝えよう！森の“いのち”の知恵と力
- ⑥食から考える価値と暮らし
- ⑦ねん土をつかって、超ミニアースオープンをつくらう！
- ⑧農村と若者～そと者、若者による農山村の活性化～
- ⑨一次産業と社会貢献事業～金の切れ目が本気のはじまり
- ⑩「住み聞き」を考えよう～身近に環境教育の場をつくる～
- ⑪「都市と自然の融合～両方見て、初めて見える環境教育！～」
- ⑫木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及をめざして～①
- ⑬地域に根ざすということについてPBEへの招待
- ⑭田舎で生きる！ライフモデル作りワークショップ
- ⑮バタゴニアから学ぶ！持続可能な働き方と歩み方
- ⑯環境教育×植物療法～自然の恵みをヒトの力に～
- ⑰都市型環境教育 小学生向け紫外線プログラム体験
- ⑱文学から見た農的暮らしの可能性
- ⑲理想のシフト？自然学校職員の本音と未来像
- ⑳身近な環境の総合的“明察”…内なる「マイ」を創ろう！
- ㉑農がXを助け、Xが農を助ける～半農半NPOでいこう～
- ㉒エコとエネのつながりを考えるカードゲームワークショップ
- ㉓森で教える国語・算数・理科・社会をつくっちゃおう！
- ㉔木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及へ向けて～②

【早朝 WS】

- ①科学と環境教育プログラム「静岡のなりたち」
- ②みどりともだちに！泥んこ遊び de 苔玉作り
- ③キープ協会「アニマルパスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2013(通算 27 回)】

- 日時：2013年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：204人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーンノートスピーチ
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション
- ・「環境教育に関わる諸団体から最新のメッセージを聞く」

【ワークショップ】

- ①自分の仕事を創る技術～IPの新しい可能性を考える～
- ②地域に根ざした環境教育 Place-Based-Education
- ③モミでご飯をたこう！～空き缶で「ミニかまど」づくり～
- ④宇宙船地球身体感インプリ：20世紀天文少年の誘い
- ⑤環境教育をカードゲームで考えてみよう～エネルギー編
- ⑥「原発事故のはなし3」デモとディスカッション
- ⑦質的データ分析(QDA)を体験してみよう
- ⑧企業とNGOの幸せな関係をながく続ける秘訣
- ⑨楽器を使ったプレゼンテーションを考えよう
- ⑩知っておきたい基礎知識～命・自然・地球・宇宙～
- ⑪日常の現場や暮らしに持ち帰る「運営と振り返り」
- ⑫持続可能な地域のための必要なくみを考えよう
- ⑬継承したい日本の自然観～自然体という生き方～
- ⑭事例から学ぶESD(持続発展教育)の基本と実践
- ⑮ゲームで生態系を学ぼう！
- ⑯ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術～
- ⑰パフォーマンス評価の世界の潮流
- ⑱15年のノウハウ伝授！身近な素材でプログラムづくり
- ⑲小学校で環境教育やりた人 集まれ！
- ⑳伝える技術 KP 法(紙芝居プレゼンテーション法)

【早朝 WS】

- ①アイソン彗星いつ観るか…清里、澄んだ空…今でしょ！
- ②ロシアからの旅人に会おう
- ③清里トレラン

【特別企画】

- ・アクアマリンふくしま移動水族館

【自主企画】

- ・プレゼンテーションで世界を変える！～TEDの世界～
- ・野外フェスは環境教育のツールになりえるか！？
- ・スマホ、テレビゲームの年齢制限でも考えてみよう
- ・JEEF 理事バンド(バンド演奏)

■10分プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2014(通算 28 回)】

- テーマ：「ESDの10年後の環境教育」
- 日時：2014年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：186人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

■後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーンノートスピーチ
- ・基調報告 テーマ【ESD ユネスコ世界会議を終えて】
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション【私とESD】

【ワークショップ】

- ①自然の中で遊ぶゲーム
- ②再び、地域に根ざした環境教育(PBE)について
- ③企業のESDのあり姿/あるべき姿を考えよう
- ④「協働」による里山再生の取り組み～○○×○○～
- ⑤エネルギー大臣になろう～ゲームで考える環境教育～
- ⑥ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術
- ⑦楽器を使ってプレゼンテーションしよう
- ⑧語ろう！考えよう！「企業のESD宣言」
- ⑨電子絵本を活用したESDプログラムを考える
- ⑩国連の新目標(SDGs)は環境教育普及につながる？
- ⑪体感、出航！宇宙船地球丸「苦手は天文」ぶっ飛ばせ
- ⑫「自然学校と林業」環境教育は暮らし生業に直結せよ！
- ⑬イノベーション創発型ワークショップのデザインを学ぶ
- ⑭清泉寮で自然音楽野外フェスティバルをつくる
- ⑮教育と刃物～ナイフを使う喜びを子どもたちに！
- ⑯シニア自然大学を作ろう
- ⑰自己肯定感を育むESD～これからの学びへの提案～
- ⑱GEMSの新しい使い方～森の中で「図書館の片隅で～
- ⑲KP法(紙芝居プレゼンテーション法)の工夫共有ワークショップ
- ⑳小学校で環境教育をやろう！Part II

【早朝 WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと勤行
- ②環境教育と持続可能な開発の日米比較研究中間報告②
- ③エンカウンターグループ「今ここ」
- ④清里朝散歩

■10分プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2015(通算 29 回)】

- テーマ：「地域をつくる環境教育」
- 日時：2015年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：174人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 特別協力：環境省グッドライフアワード
- 全体会

- ・キーンノートスピーチ「農的生活学校の学び方」
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション「地域をつなぐ環境教育」
- ・「世代を超えて一緒にOOおう！」

【ワークショップ】

- ①広範囲に拡散した外来種の市民による調査と駆除対策
- ②獣害問題は、環境教育の対象になるのか。
- ③エネルギー大臣になろう！～ゲームで考える環境教育～
- ④ご当地GEMS～地域に根ざしたアクティブ・ラーニング～
- ⑤自然学校の30年を振り返りこれからの20年を考える
- ⑥環境教育の基礎…自然とは？命とは？
- ⑦「PBE：地域に根ざした学び」を考える
- ⑧「若者が地域で生きる・暮らす」を考える3時間
- ⑨里山ってなんだろう～その意味、価値を考える～
- ⑩野生生物と共生する環境地域づくりの進め方
- ⑪持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方
- ⑫サステイナブル・ツーリズム国際基準を自然学校に！
- ⑬体感、出航！宇宙船地球丸。「天文は苦手」ぶっ飛ばせ
- ⑭探そう磨こう！環境教育の魅力を支えるコトバ
- ⑮野外フェスに環境教育を広げる『NATCU FES』
- ⑯地域が蘇る「森林資源を循環させる経済」を考える
- ⑰廃校利用の自然学校の経営
- ⑱ビギナーのための自然体験型環境教育プログラム

【早朝 WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと瞑想と歌
- ②手づくりのもみ殻コンロ、ペール缶ぬかくどの実演！
- ③ロシアからの旅人と再会しよう～冬鳥との出会いを求めて～
- ④清里朝散歩

■10分プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2016(通算 30 回)】

- テーマ：「環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？」
- 日時：2016年11月5日(土)～7日(月)
- 参加人数：196人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会

- ・スライドショー「これまでの環境教育をふりかえる」
- ・パネルディスカッション「日中韓スウェーデンの環境教育比較研究」
- ・全員参加型ディスカッション

【ワークショップ】

- ①持続可能な社会づくり、企業の役割とは
- ②持続可能な暮らしの日常を体験する「いつもの暮らし」
- ③『エディブル・スクールヤード』をはじめよう！
- ④環境教育業界×私たち、若手の関わり方
- ⑤祝30周年☆清里ミーティングにまつわるコピーを作る
- ⑥自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て

- ⑦エネルギー大臣になろうワークショップ
- ⑧清里ミーティング「30+30」
- ⑨森の中でサイエンス～動物たちの生きる知恵
- ⑩「環境」=「地球」を感じてみよう！天文のイロハ for 環境教育
- ⑪CEPA って何の略？地域をつくる湿地教育を考える
- ⑫森が薫る燻製づくり
- ⑬一流を学ぶ・・・第一印象と名刺交換
- ⑭「水の足跡」-スペース・ワークを使って-
- ⑮環境・CSR 活動評価チェックリストを使ってみよう
- ⑯海の森からの贈り物～海藻おしぼり～
- ⑰告知・広報に活かす”伝わる”、”伝える”文章講座
- ⑱環境教育と家族
- ⑲アクティビティを再生する
- ⑳野外での事故に備えよう！「野外・災害救急法」の体験
- ㉑いま「公害教育」を考える
- ㉒「いつもの暮らし」を環境教育プログラムに！
- ㉓「自然から学ぶ場と人の全国フォーラム」中間検討会
- ㉔SDGs でつなげる地域と活動ワークショップ
- ㉕銀粘土で作る リーフモチーフの緋銀アクセサリー
- ㉖幻想は捨てよう！NPO と行政のミズを埋める 8 0 分
- ㉗火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり
- ㉘マジックで環境教育に活用する
- ㉙「拡げよう！特定外来生物駆除活動の輪！
- ㉚持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方 2

【早朝ワークショップ】

- ① ヨーガと瞑想
- ② 甲虫の玉虫でアクセサリーを制作してみよう
- ③ 冬鳥と出会い、地球を感じよう
- ④ 清里朝散歩

■10分プレゼンテーション

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

（公社）日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2017(通算 31 回)

- テーマ：「組織・活動を変革する 17 の視点 ～SDGs でつくる私のアクション～」
- 日時：2017 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：137 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、日本環境教育学会、持続可能な開発のための教育推進会議
- 全体会
 - ・パネルディスカッション「SDGs に向けて教育は何ができるか」
 - ・自分×SDGs で次のアクションを考える
 - ・全員参加型ディスカッション～SDGs でつくる私のアクション～

■ワークショップ

【対話型ワークショップ】

- ① フライング・ワイルドの体験と SDGs との繋がり
- ② SDGs ×わたし
- ③ 協同学習の手法で環境教育をスキルアップしよう！
- ④ 環境思想を考える
- ⑤ 生きものの魅力で心を動かしたい
- ⑥ 森林療法×環境教育～癒しが持つ SDGs への可能性
- ⑦ つなげよう！自然体験型エコツアーと SDGs
- ⑧ CSR プログラム事例で学ぶ社会的インパクト評価
- ⑨ パートナーシップでつくる「キヨサト」SDGs 企画
- ⑩ 環境教育研究&実践から考える SDGs

【体験型 (E)・フレッシュバーソンズ (F) ワークショップ】

- ⑪ 持続可能な「ミライ」をつくる人材育成の在り方：F
- ⑫ 森林療法～調和する自己の持続可能性：F
- ⑬ 中止：野外活動を 120%楽しくする図鑑の読み方・使い方：F
- ⑭ 火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり：E
- ⑮ KP 法で SDGs を整理してみよう：E
- ⑯ 17 の SDGs で柔軟な頭を作るゲームを：E
- ⑰ アナログゲームで環境を学ぼう！：E
- ⑱ 「教える」より「学びあう場」を創ろう！：E
- ⑲ 中止：自然を使った深く自分と繋がる体験ワークショップ：F
- ⑳ 「うんこ」から自然を見る～教材化の面白さと可能性：F
- ㉑ 中止：環境ポータルサイト「BLUE SHIP」の活用方法：F
- ㉒ 自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て：E
- ㉓ 既存のプログラムを SDGs ナイズ大作戦！GEMS 編：E
- ㉔ SDGs と森里川海、そしてライフスタイル：E
- ㉕ 目からウロコ、環境教育のためのミニマム天文基礎講座：E
- ㉖ 公害と SDGs JEEF・あおぞら財団の協働 FW：E
- ㉗ 一体感を生み出す魔法の技術！アイスブレイク三連発♪：E
- ㉘ 音楽フェス×環境教育@清里 超実践体感ワークショップ

【早朝ワークショップ】

- ① 森林療法プログラム体験～樹林気功とグラウンディング
- ② ヨーガと瞑想
- ③ 甲虫の玉虫でアクセサリーを製作してみよう
- ④ マインドフルな自然体験
- ⑤ 冬鳥と出会い、地球を感じよう

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

（公社）日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2018(通算 32 回)

- テーマ：「ESD + SDGs ～ 未来を変える教育を考える」

- 日時：2018 年 11 月 16 日(金)～18 日(日)

- 参加人数：146 人

- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム

- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs がもたらす共創の可能性
- ・パートナーシップで未来を変える！
- ・アイデアは地球を変える

■ワークショップ

【体験型ワークショップ・1】

- ① SDGs に果たす ESD の役割
- ② 自然観察で知る生物多様性、命のあり方、人という生物
- ③ 学生版清里ミーティング実施に向けた作戦会議
- ④ 棚田米を土鍋で炊いて、味わい、お米の魅力を探る
- ⑤ JOLA ～アウトドアで「未来のための人づくり」～

【対話型ワークショップ】

- ⑥ SDGs for School 未来の教育デザイン
- ⑦ エコヴィレッジ、災害に強いオフグリッドの居場所作り
- ⑧ 研修「設計」のススメ
- ⑨ 公害の経験から考える SDGs 達成に向けた課題
- ⑩ 災害支援と自然学校の役割
- ⑪ 美しい棚田を未来につなぐ 11 年の環境教育の実践
- ⑫ ESD による地域創生の可能性
- ⑬ エコ・自然塾

【体験型ワークショップ・2】

- ⑭ 野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議

【体験型ワークショップ・2】

- ⑮ フルサイズの発酵ワークショップ
- ⑯ 読本「森里川海大好き！」を活かした環境教育へ
- ⑰ 森カフェ GEMS マタギさんと算数・自然の恵み山御膳
- ⑱ 歌の力、体感ワークショップ
- ⑲ UNCO ゲーム開発のためのβ版体験ワークショップ
- ⑳ 教員向けエコ×エネ体験ツアーの手応えと可能性
- ㉑ 森で元気に！キープの「森林療法」ちょこっと体験☆
- ㉒ ハラオチ納得！ジオガシキッチン教室
- ㉓ 「地域を活かした教育力」
- ㉔ 「九州・沖縄で暮らし続ける！」地域に根ざす SDGs

【早朝ワークショップ】

- ① ロシアからの旅人と再会しよう
- ② ヨーガと瞑想
- ③ 山珊瑚で根付を作ってみましょう
- ④ 清里朝散歩

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

（公社）日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2019(通算 33 回)

- テーマ：「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」

- 日時：2019 年 11 月 15 日(金)～17 日(日)

- 参加人数：120 人

- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム

- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs に捉われすぎいませんか？
- ・Learn (主体的な学び) と Unlearn (学びほぐし)

■ワークショップ

【90分ワークショップ・1】

- ① 社員を全員ファンリテーターに
- ② インタープリテーションをより効果的にする指標作成プロジェクト
- ③ 地球温暖化を逆転する 100 の方策ドローダウン紹介
- ④ 全く新しいアイデアで地球を救う本気スーパー脳嵐
- ⑤ 「静」のプログラムの可能性

【150分ワークショップ】

- ⑥ スマホから考える世界・わたし・SDGs
- ⑦ カードゲーム「新」エネルギー大臣になろう！
- ⑧ わたしたちの地域、みんなでどうする？～各地の事例から学び合おう！～
- ⑨ 野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
- ⑩ 持続可能に海の資源を守るための取り組みを考える
- ⑪ 身体感覚の気づきから持続可能な社会について考えよう
- ⑫ 環境教育×中小企業！～パートナーシップで持続可能な事業をめざす～
- ⑬ エコロジカル・シンキング カードで発想しよう！
- ⑭ 自然観察の基本、環境教育の基礎をおさえよう

【90分ワークショップ・2】

- ⑮ 見ることに頼りすぎているかもしれない私たちへ。
- ⑯ 古今東西！環境教育ミーティング！
- ⑰ ライブ&ダイアログ：自然の摂理を歌おう！
- ⑱ ゲノム編集食品について問い合う
- ⑲ 林業×チームビルディングの可能性は？

【早朝ワークショップ】

- ① 美しい玉虫の甲羅でアクセサリーを作ってみましょう。
- ② 渡り鳥に出会い、季節や自然を感じよう！
- ③ 清里朝散歩♪
- ④ ヨーガと瞑想

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2020(通算 34回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2020年12月6日(日)~12日(土)
- 参加人数:303人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:オンライン
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD活動支援センター
関東地方ESD活動支援センター、
持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全大会1「自然遊びで育つ「たくましさ」
 - ・全大会2「世界の環境教育実践から学ぶ」
- ワークショップ
 - 1.インタープリテーション再入門
~インタープリターが伝えるコミュニケーションと探求の極意
 - 2.トヨタ山田とグリーンウッド社が贈る!!
トヨタ白川郷自然学校×校長山田氏×環境教育×学生=素敵な未来?
 - 3.どうなの?どうする?「プラスチックごみ」ワークショップ
 - 4.渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える
 - 5.地域に大学を!~地方創生に向けた教育改革
 - 6.オンラインでもハンズオン!-GEMS 入門編
 - 7.大人だって絵本が好き!-SDGs とつなげよう
 - 8.地域のビジター体験を充実させるためのガイド
/インタープリターのコンピテンシーとは
 - 9.CSO ラーニング卒業生のイマ
~NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成
 - 10.「複製」を始めてみよう
 - 11.コロナ時代の幕開けを語ろう~自然学校語り部屋
 - 12.伝わるオンラインプレゼンテーション!
~デジタル環境のあたらしいありかえ
 - 13.気候変動をさまざまな角度から見てみよう!
~SDGs × 環境教育 × 地方公共団体の観点から
 - 14.『やまねミュージアム』オンラインツアーに挑戦!
~オンラインにおける展示施設の可能性を考える
 - 15.あつまれ!清里の森の小劇場
おうちからでも、森を楽しみたい人集まれ~!
 - 16.環境教育×NVC~持続可能な未来を創る「対話」のちから
 - 17.グリーンスクール卒業生(日本人女性初)が語る「気候変動」と「環境教育」
 - 18.馬との暮らし・自然の中で育つ、ちょっと気になる子ども達
~感覚統合×自然体験・ホースセラピー
 - 19.「森」×「健康」~リトリートの場としての森の可能性を考える
 20. JICA 海外協力隊カフェ~ベリリス・ホンジュラス・キルギス編
 - 21.東アジア地球市民村食堂
~食事の風景から探る私たちの自然観と共通性
 - 22.ユースと語ろう!学校×環境教育のこれから
 - 23.自分を満たす暮らしとは?
自分だけのモバイルハウスをデザインしてみよう!
 - 24.SDGs にはこう取組むのがいいね!をみんなで考えよう。
 - 25.地域に根ざした環境への取り組みとは
~インドネシア駐在歴約 20 年の矢田さんをお迎えます
 - 26.美しい棚田を未来につなぐ 14 年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう
 - 27.プラスチックさよなら大作戦~阿部ゼミ生に力を貸してください!!
 - 28.【リレートーク】「読んでほしい」「知ってほしい」環境のこと
 - 29.豊かな森を造る×脱炭素×地域活性化
 - 30.は・ず・む♪アイデア出しミーティング
~3M のチームワークソリューションを学ぼう!
 - 31.「エシカル・ツーリズム」の可能性~観光×「海ごみ」でまちづくり
 - 32.あなたが国の代表に!?なりきり国際環境会議!
 - 33.海や自然と深くつながる。
化石燃料を使わないサステナブルモニターツアー報告
 - 34.コロナ禍から先頭を切った音楽フェス「ハイライフ八ヶ岳」
開催の決断と、その感染抑制の実態を赤裸々に伝え振り返る 90 分
 - 35.ペルー×青年海外協力隊~環境教育隊員の活動ご紹介!
 36. 内側と外側から自分とつながる Forest タイム
- 10分プレゼンテーション
- その他のプログラム
 - 1.情報交換会
 - 2.理事×リジ×りじ=?
 - 3.長沢裕×辻英之 特別ワークショップ
 - 4.市民のための環境公開講座&特別座談会
 - 5.ブータンの朝 LIVE
 - 6.自然学校 NIGHT
 - 7.ふりかえり会

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2021(通算 35回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2021年12月5日(日)~11日(土)
- 参加人数:313人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:オンライン
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、国立青少年教育振興機構、
ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、
NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会1「2030まであと9年。環境・教育で何に取り組む?」
 - ・全体会2「『共に生きる』を改めて考える~これからの生物多様性~」
- ワークショップ
 - 1.森好きが育つ場所白神山~森のすごさと地域の課題と未来~
 - 2.アートの入り口~もっと教育に遊びゴコロを!~
 - 3.どうしたらいいの?「行動変容」実行へつなげるための方法を考えよう
 - 4.ポッドキャスト公開収録!環境教育ラジオ『私の本棚』
 - 5.「保育と自然・環境教育」情報交換会

- 6.未来の海を絵に描こう!・あなたが願うのはどんな海?・
 - 7.自然学校スタッフの日常のスキルは、被災地支援のコーディネーターに役に立つ
 - 8.ミニチュアお節のペーパークラフトで、『敬い』と多様性を考えよう
 - 9.占い×SDGs~地球と僕らの未来を占う
 - 10.大人だって絵本が好き!~おもしろそう!そうなんだ!を絵本と共に~
 - 11.子どもたちに「ライフジャケット」を!~思いはただ1つ...子どもたちの命を守る
こと~
 - 12.いま実現したい「LIFESHIFT」の生き方はたらき方
 - 13.地域や社会の課題をSDGsで整理して考えてみよう。
 - 14.地域の宝をどう磨く?~「そこならではの価値に光をあてる~インタープリター奮闘
中!~」
 - 15.地球と仲良く暮らすための4つの鍵(KEYS)!?SDGs ウォッシュで終わらない
環境教育を考えよう~環境教育のオルタナティブ「Earth Education(地球教育)」の
モデル・プログラム「EARTHKEEPERS」の試みを通して~
 - 16.こども達が自分の力を発揮できる環境をつくらう!~ヘンデコな世界観のワーク
ショップの事例から~
 - 17.自然は自分の中にある~身体の資源、使えますか?~
 - 18.八ヶ岳自然ふれあいセンター館内オンラインツアー&ビジターセンター展示・教材
情報交換会
 - 19.服・ファッションからサステナビリティを考えるワークショップ
 - 20.東京港野鳥公園で「渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える」野鳥観察
 - 21.野外フェス×環境教育~ハイライフ八ヶ岳の可能性を探る作戦会議~
 - 22.ねんどをこねて未来を変える!
 - 23.気候変動を自分事化して考えるために
 - 24.企業との協業を考えるゆるっとカフェ~企業と環境とサステナビリティと~
 - 25.学びの役割再考~社会変容につながる全体地図を考えるキックオフ
 - 26.レジ袋の有料化って実際どうなの?あなたの考えを教えてください!
 - 27.みちのく自然学校カフェ
 - 28.みんなで「つくる」ソーシャルアクションガイドブックの制作と共有~超文化祭より
 - 29.デイリー シェアリングネイチャー(自然に気づくネイチャーゲーム)
 - 30.虐待、貧困、不登校...様々な困難を抱える子どもたちへ、私たちは何が出来るのか?
~「子どもの課題×自然・野外」作戦会議
 - 31.全部見せます!答えます!YouTubeチャンネル・You 虫部のトライ&エラー
 - 32.自然学校を立ち上げるときのポイントと連携のあり方考える
 - 33.小学生から始める 地球のけんりせんげん~ゴミに命を吹き込もう~
 - 34.大変だけれど楽しい本づくり
 - 35.自然学校が行う学童保育の紹介
 - 36.仕事×家庭×自然学校若手経営者のワークバランスを考える
 - 37.教育について考えよう
 - 38.CSO ラーニング卒業生のイマ~NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成~
 - 39.『飛び出す江戸の町並み図絵』ペーパークラフトで、RRRDR と資源、文化の多様性
を考えよう
- 10分プレゼンテーション
- その他のプログラム
 - 1.情報交換会
 - 2.トークショー1「長距離自然歩道を歩こう!」
 - 3.トークショー2「捨てない暮らしとレトロイノベーション」
 - 4.市民のための環境公開講座
 - 5.自然学校ナイト
 - 6.自然学校オンラインツアー

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2022(通算 36回)

- テーマ:「全国の環境教育者と出会う!つながる!」
- 日時:2022年12月9日(金)~11日(日)
- 参加人数:297人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場:9日~10日 Zoom(オンライン開催)
11日 大妻女子大学千代田キャンパス(対面開催)※Zoomでも配信
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人 国立青少年教育振興機構、
ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、
一般社団法人日本環境教育学会、
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)
- 基調講演
 - ・空や雲を楽しみながら、地球の将来を考えよう
- トークセッション
 - ・トークセッション1「環境教育×STEAM部会 成果報告会」
 - ・トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」
- ワークショップ
 - 1.子どもの可能性を伸ばす学校教育
 - 2.サステナブルな観光地域への歩みをすすめていくには?~『サステナブルな未来~
~人と自然の出会いの場づくり 親子で挑戦!~』報告を糸口~
 - 3.生物多様性ミライ会議~わかものと環境保全をつなぐには~
 - 4.心地よいオンライン空間をつくるコツ
 - 5.「世界がもし100人の村だったら」から話し・考えるSDGs
 - 6.渡り鳥に気づき、自然を知り、文明を考える。
 - 7.中国の皆さんとIP4 コマまんが作ってみたい!日本の皆さんも作ってみよう♪
(事例紹介&作成ワークショップ)
 - 8.いのちをつなぐ~国産ジビエの取り組み
 - 9.遊びで育つ放課後の時間!自然学校が行う学童保育の紹介!
 - 10.美しい棚田を未来につなぐ16年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう~出版社
からの「棚田くんが行く」の秘話と地に足のついた生き方を棚田と体から考えよう!
 - 11.見えない世界を見てみよう! 双眼鏡の世界「Seeing beyond」
 - 12.新しい感性で環境問題に挑む
 - 13.VR と、「おせち」江戸の町並み「大きな鏡餅のおきあがりこぼし」などのペーパ
ークラフトとで、自然への敬いや異文化理解、資源・サーキュラー・エコノミー
(CircularEconomy)・RRRDR を考えよう
 - 14.自然や馬の力に頼ったインクルーシブな場づくりを考える~ホースセラピーの現場を
ヒントに差別のない社会をつくる
 - 15.クリニカルアートへようこそ「いろいろな線と色で遊ぼう」
 - 16.体験の質を高める~「ホンモノ」とは何か?
 - 17.ポストSDGsを見すえて、組織が組んで事業化を考える作戦会議
 - 18.「学びの役割」再考・研究部会~私達は社会を変える環境教育が出来ているか?
 - 19.自然体験・環境教育のフェスティバル「清里オーガニックキャンプ2023」作戦会議

■JEEF 設立 30 周年記念講演会

- ・対談「自然と子どもの関係性～成長に必要な子どもの体験～」

清里ミーティング 2023 報告書

発行者：公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF)

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1階

TEL : 03-5834-2897 FAX : 03-5834-2898

URL : <https://www.jeef.or.jp/>